

「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」連続シンポジウム

主催 日本建築学会近畿支部、グリーンコンクリート研究センター

企画 同支部 設計・計画部会、住宅部会、環境工学部会、材料・施工部会、木造部会

後援 国土交通省近畿地方建設局、農林水産省近畿農政局、環境省近畿地方環境事務所
コンクリート関連16団体

日本建築協会、近畿建築士会協議会、日本建築家協会近畿支部、日本建築材料協会、
日本建築構造技術者協会関西支部、建築業協会関西支部、日本建築総合試験所、
日本建築士事務所協会連合会近畿ブロック協議会

第1回 部会連携シンポジウム「持続可能な都市住宅地のあり方を考える」

日本建築学会近畿支部とグリーンコンクリート研究センターは、「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」に関する設計競技と連続シンポジウムの事業を行っております。この連続シンポジウムの一環として、当支部住宅部会と設計・計画部会の連携による標記シンポジウムを開催いたします。

趣旨：

建築分野における持続可能性に関する議論では、建物の建設や利用がもたらす環境負荷の軽減や建物自体の長期耐用性などが主に扱われるが、負荷が少なく長期間もつ建物があったとしても、それらが集まって形成される「まち」、また、そこで営まれる人々の暮らしが持続可能でなければ意味をなさない。そうした観点から、住まい並びにそれらが集まって形成される居住地のあり方を捉え直すと、そこには建物の性能とは異なる次元の課題が浮かび上がってくる。

そこで本シンポジウムでは、そうした課題の1つと考えられる居住空間の形態や集住様式を制御する制度に着目し、この点にフォーカスしつつ、住宅の集合体としての「住宅地」、そしてそこに住む人々で構成される「地域社会」の持続可能性を考える。一般に、都市型の住宅地像は、建物形態と土地利用の観点から大きく、低層－高密度の戸建住宅地と、中層・高層－低密の集合住宅（地）に分けられる。議論を単純化するため、この分類を手掛かりにして、持続可能性の観点からみた双方の可能性と課題について、住宅・住環境をとりまく社会経済環境の変化も視野に入れつつ、多角的に検討したい。

【主催】 日本建築学会近畿支部 住宅部会＋設計・計画部会

【日時】 2011年2月19日（土曜日） 13時30分～16時30分

【会場】 大阪市立大学文化交流センター・ホール

（大阪市北区梅田1-2-2-600（大阪駅前第2ビル6階）、TEL：06-6344-5425）

【定員】 100名（申込先着順）

【参加費】 無料（ただし、資料代は実費（500円程度）徴収いたします。）

【申込方法】 E-mail または FAX にて、氏名・所属・連絡先 TEL を明記のうえお申込み下さい。

定員を超えた場合はその旨を連絡いたします。

【問合せ・申込先】 日本建築学会近畿支部

E-mail: aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp TEL: 06-6443-0538 FAX: 06-6443-3144

【内容】

進行・趣旨説明：檜谷美恵子（京都府立大学）

基調講演 住田昌二（大阪市立大学名誉教授）

都市住宅地を取り巻く今後の社会の変化と、そのような時代に住宅地の持続可能性として何が重要になるか、どのような住宅地が持続可能なのかについて、包括的に提起していただく。

パネルディスカッション：

住田昌二（大阪市立大学名誉教授）

青木仁（東京電力技術研究所）：まちづくりからみた「ミニ戸建て住宅群」の魅力

森本信明（近畿大学）：住まい手からみた「まちなか戸建」の可能性と課題

コメンテーター：木多道宏（大阪大学）、米野史健（大阪市立大学）：集合住宅の観点から

第2回 部会連携シンポジウム「地球環境と持続可能な住まい・地域住環境を考える」

日本建築学会近畿支部とグリーンコンクリート研究センターは、「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」に関する設計競技と連続シンポジウムの事業を行っております。この連続シンポジウムの一環として、当支部住宅部会と環境工学部会の連携による標記シンポジウムを開催いたします。

趣旨：

地球温暖化や生物多様性の維持・保全等、地球環境をめぐる問題への対応が急がれている。すでに様々な分野で、循環型社会の構築や低炭素社会の実現に向けた取り組みがすすめられており、建築の分野においても、建築物を環境効率で評価・格付けするための建築環境総合性能評価システム（CASBEE）等が開発され、その利用が促進されるようになってきた。住宅についても、その性能を向上させ、環境への負荷を低減するとともに、緑化を積極的にすすめるなどして、地域住環境の質を高めることが目指されている。

しかし、これらを促進するだけで、住まいと地域住環境の持続可能性は高まるのだろうか。言い換えれば、我々は、世界標準となるような環境配慮住宅のモデルを探るべきなのか、それともそれぞれの地域で生み出されてきたローカル・モデルを見直し、これを現代に継承する方法を探るというアプローチをとるべきだろうか。

本シンポジウムでは、持続可能性というキーワードを用いて、それぞれの地域に固有の自然によって育まれてきた歴史・文化を重視する地域モデルに着目しつつ、環境と共生する住まい、環境に配慮した住まいとは何か、またそれを実現するための方法を考えたい。

【主催】 日本建築学会近畿支部 住宅部会+環境工学部会

【日時】 2011年3月4日（金曜日） 13時30分～16時30分

【会場】 大阪市立大学文化交流センター・ホール

（大阪市北区梅田1-2-2-600（大阪駅前第2ビル6階）、TEL：06-6344-5425）

【定員】 100名（申込先着順）

【参加費】 無料（ただし、資料代は実費（500円程度）徴収いたします。）

【申込方法】 E-mail または FAX にて、氏名・所属・連絡先 TEL を明記のうえお申込み下さい。
定員を超えた場合はその旨を連絡いたします。

【問合せ・申込先】 日本建築学会近畿支部

E-mail: aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp TEL: 06-6443-0538 FAX: 06-6443-3144

【内容】

進行：安枝英俊（京都大学）

趣旨説明：檜谷美恵子（京都府立大学）

基調講演 高田光雄（京都大学）

住宅・建築における環境政策の強化は、原則的には、深刻化する環境問題の緩和に貢献するものとして大いに支持すべきものである。しかし、一方で、こうした動きの中には、地球上の多用な地域の居住文化を押しつぶす危険も孕んでいることに注意する必要があるように思われる。グローバルな視点から環境政策が展開される中、異なる環境にあるローカル・モデルを模索することの重要性について、問題提起していただく。

パネルディスカッション：パネリスト3名からの報告とディスカッション

高田光雄（京都大学）

佐々尚美（武庫川女子大学）環境共生と住まい方：環境工学の立場から

加茂みどり（大阪ガス・エネルギー文化研究所）環境共生と居住文化：住宅計画の立場から

木村文雄（積水ハウス株式会社）環境共生と技術・実務家の立場から

コメンテーター：相良和伸（大阪大学）

第3回 部会連携シンポジウム「コンクリートと木の親和性および持続可能性の技術を考える」

日本建築学会近畿支部とグリーンコンクリート研究センターは、「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」に関する設計競技と連続シンポジウムの事業を行っております。この連続シンポジウムの一環として、当支部材料・施工部会と木造部会の連携による標記シンポジウムを開催いたします。

趣旨：

鉄筋コンクリート造は、コンクリートの主原料であるセメントが工業製品として大量生産されるようになってから、まだ百数十年しか経過しておらず、耐久性を確保する維持管理技術が未成熟で、持続可能性に不明な点が多々ある。一方、社寺建築等に代表される伝統的構法による木造建築は、適切な補修や維持管理技術によって、千数百年以上の長い期間、創建時に用いられた主要部材を持続的に使用しうることが実証されている。しかしながら、近年の木造建築物に用いられる、種々の金物による接合技術やエンジニアリングウッド技術等についての持続可能性には不明な点も残されている。

一般的には、有機物の木と無機物のコンクリートをコラボレーションする親和性技術は、その要求性能が不明瞭のため、技術手法の具体化が困難な状況にあり、課題も多いと考えられる。ただし、鉄筋コンクリート造と木造建築に関する技術を相補的な視点から改めてみることで、これからの持続可能な住まいや社会を考えていく上のヒントが見出せないだろうか？

本シンポジウムは、今回の設計コンペの応募案を分析するとともに、コンクリートと木の親和性および持続可能性の技術を考える機会を設けたものである。

[主催] 日本建築学会近畿支部 材料・施工部会+木造部会

[日時] 2011年3月22日(火曜日) 受付13時30分～、開始14時00分～16時30分

[会場] 常翔学園大阪センター

(大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3階, TEL: 06-6346-6367)

[定員] 100名(申込先着順)

[参加費] 無料(ただし、資料代は実費(500円程度)徴収いたします)

[申込方法] E-mailまたはFAXにて、氏名・所属・連絡先 TEL を明記のうえお申込み下さい。

定員を超えた場合はその旨を連絡いたします。

[問合せ・申込先] 日本建築学会近畿支部

E-mail: ajj-kinki@kfd.biglobe.ne.jp TEL: 06-6443-0538 FAX: 06-6443-3144

[内容]

進行・趣旨説明：山崎順二(浅沼組)

講演：

1. 中村成春(大阪工業大学)

1) 鉄筋コンクリート造の耐久性と維持管理からみた持続可能性技術の現状(25分)

2) 設計コンペ応募案の分析とコンクリートと木の親和性技術の一考察(25分)

2. 向井洋一(奈良女子大学)

設計コンペ応募案に見るコンクリートと木のコラボレーションの設計技術的イメージの分析

3. 山田政雄(竹中工務店)

RC構造と木構造の複合による建築設計事例に見るコンクリートと木の親和の技術的可能性
講演後、会場聴衆者からの質疑を含めた意見交換会を実施予定